

成果報告書

(地域部活動推進事業)

市川三郷町立市川中学校

所在地	山梨県西八代郡市川三郷町
運営主体	市川三郷吹奏楽団
事業目標	教員の働き方改革が進められている現在、部活動の活動制限が図られている。市川三郷吹奏楽団が市川中学校吹奏楽部指導に関わることで、教員の多忙化解消、専門的指導に繋がり、より一層学校生活の活性化が推進される。
団体・組織等の連携	<pre>graph LR; A[文化庁] -- 委託金 --> B[市川三郷吹奏楽団]; B -- 指導医 --> C[市川中学校]; C -- 活動場所 --> B;</pre>
活動場所	市川中学校
活動概要	土日のどちらか半日、パート練習やセクション練習、合奏に混ざって生徒にアドバイス等を行った。山梨県吹奏楽コンクールでは、銀賞を受賞することが出来た。 生徒からは「今後も積極的に指導を受けたい」、顧問からは「専門的な指導や指導を任せられる部分があったことで負担の軽減になった」というアンケート結果を得られた。

○本事業による成果

- ・吹奏楽では様々な楽器を使用する。楽団員がそれぞれの担当楽器毎に指導を行うことで、専門的な指導を行うことができた。その結果、生徒の知識や基礎力の向上につながり、山梨県吹奏楽コンクール、山梨県アンサンブルコンテスト両大会において、前年度より格上の賞を受賞することができた。このことは、生徒のモチベーションの向上につながっていると考える。
- ・生徒のアンケートからは、「今後も積極的に指導を受けたい」という結果が得られた。
- ・顧問のアンケートからは、「専門的な指導を行ってもらったり、指導を任せられる部分があったことで負担の軽減になった」という結果が得られた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・パート毎の指導を基本として行った。その際、練習内容や次回までにできるようになって欲しいこと等をノート(各パート1冊用意)にまとめ、生徒がいつでも見返せるようにした。また、指導者も毎回同じとは限らないため、次回の指導者も前回の内容がわかるように記入ができるよう、統一した形式を準備し記入するようにした。
- ・大会前は指導者を増員して対応し、生徒一人一人に目がいくようにした。
- ・生徒の習熟度を見ながら、パート毎の指導だけでなく個人の練習を行う等、その都度生徒に合った対応を心掛けた。
- ・生徒に指導を行うだけでなく、楽団の練習の見学をしてもらうことで、客観的に自分達の練習を振り返る時間を設けた。生徒も刺激を受けたようで、モチベーションアップに繋がった。

○運営上の工夫

- ・指導日を毎月決めるのではなく、半期ごと(4月～8月、9月～2月)とすることで、楽団・学校双方の予定が立てやすく見通しを持った指導が可能であった。
- ・毎月、指導報告を行い、まとめたものを楽団内で共有した。各パートから挙げたよかった点や課題点を共有することで、バンドとしての課題も見え指導に活かした。
- ・半期ごとに生徒・顧問へのアンケートを行った。アンケート結果を踏まえ、指導へ活かすよう努めた。

○継続的な運営に関する課題

- ・市川三郷吹奏楽団の主な活動場所は、町の中心部から離れた山間部にある町民会館である。町の中心部にも町民会館(ifセンター)があるが、団の運営上難しいため、ほぼ利用できていない状況である。ifセンターが利用できるようになれば、交通の便が良くなり、市川中学校の指導にも利用でき、団の発展にもつながるため、団の利用について協力をお願いしたい。
- ・市川三郷吹奏楽団は一般の市民からなる楽団のため、楽団員によって知識や専門性に差があるため、パートによっては指導できる楽団員が限られてしまう。
- ・教育委員会の方が実際の指導の様子を視察していただく機会が持てると良かった。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

部活動を地域移行することで、一般の吹奏楽団の後進育成に繋がると考える。山梨県は吹奏楽人口が少ないため、楽団を維持する意味でも、地域に根差した活動を行い将来の楽団員確保を考えることは重要である。その際、練習場所を確保することが第一の課題であると考え。学校外での指導ができるよう、学校と市町村と連携を取り練習環境を確実に整える必要がある。

それを踏まえて、令和4年度は町の施設を優先的に利用し、学校外での部活動を試行する。生徒の安全面に関して、連絡網等の作成を中学校に依頼し、楽団・中学校で連携できるようにする。それに伴い、生徒の個人情報(アレルギー等も含む)共有の安全管理について検討、構築を目指す。活動場所や経費に関しては、市町村に協力を仰ぎ継続的に指導ができる体制の構築を図る。また、指導体制も楽団内の負担が分散されるよう練習方法について検討する。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	市川中学校吹奏楽部員 1～3年生 29人 今後の予定人数 30人
募集方法	吹奏楽部員は参加対象となる。
指導者	顧問2名、市川三郷吹奏楽団音楽監督1名、市川三郷吹奏楽団員(活動団員52名)
移動手段	学校で実施
活動費用	賃金1000円/時間、旅費900円/日
スケジュール	4月～7月と10月～12月に指導者派遣 7月吹奏楽コンクール出場、12月アンサンブルコンテスト出場
保険加入等	加入無し

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】

